

ポイント（３）評価項目の設定

評価の判断基準や改善に取り組む手順を明確にして、改善策を導くための評価項目を設定する。

評価項目には、学校が当該年度に力を入れて取り組もうとする重点目標に関わるようなものから、ふだんの教育活動や学校運営の質を維持するための点検の意味をもつものまで、レベルの異なるものが混在しています。これらの結果を同じように検討し対応したのでは、改善できることをそのまま放置したり、問題が深刻化する事態につながったりして、学校への信頼を低下させることになってしまいます。そうならないようにするには、評価項目の設定について検討する段階から、評価の判断基準や対応の手順を明らかにすることが大切です。また、教育活動や学校運営の計画、実施、総括の各段階で評価項目を意識して取り組むことが大切です。

さらに、同じ評価項目であっても、常に一定水準の達成度をめざす場合のほか、年度や学期ごとに異なる達成目標を設定することがあります。たとえば、初年度は60%、二年目は70%の満足度を達成目標として設定するなどの方法によって、徐々に改善やレベルアップを図ることができます。

なお、評価結果を改善に生かそうとしても、改善策がすぐには見つからなかったり、改善に着手することができなかつたりすることがあります。このような場合には、改善策をいつまでに検討し提示するのか、いつまでに着手するのかといったスケジュールを明らかにすることが評価結果を生かすポイントと考えられます。

評価項目の設定及び運用の留意点

〔 Planの段階 〕

教育活動や学校運営の計画と関連付けて、その年度や学期の評価項目及び適切な達成目標を設定する。

評価項目の対象や担当の関連を明確にする。

〔 Doの段階 〕

あらかじめ設定した達成目標のような評価の判断基準や、対応の手順を意識しながら教育活動や学校運営を実施する。

すみやかに対応できる項目や対応すべき項目を見逃さない。

〔 Check・Action の段階 〕

評価結果をもとに改善に着手する時期や手順をあらかじめ示す。

公表した期限内に具体的な改善策を提示したり取組を進めたりする。

➡ 【ポイント(3)の事例】

以下の事例は、評価項目を設定する際には、できるだけ数値化したり、段階化したりするようにして、評価結果の全体像を把握できるように工夫している例です。さらに、記述式を組み合わせる具体的な意見や改善策を探るようにしています。

記述式の評価票は従来から行っているスタイルですが、記述する際の観点を明確にすることで、具体的な取組につながるアイデアや意見が得られます。

〔事例(3) - 1〕 回答を数値化、段階化して、改善のポイントを明らかにしている。

平成14、15年度の二か年にわたって同時期に教職員による学校評価を実施した。(表1) これらについて前年度との比較検討を行って、学校として改善に取り組むべき課題を探ることができた。具体的には、「学習時間0(ゼロ)撲滅運動」を改善の柱として取組を進めている。なお、生徒の学習アンケートは5月と2月の年2回実施した。

平成16年度は、学校として改善に取り組むべき課題について、評価票(アンケート)の項目を工夫した。(表2) 指導内容や指導方法について、重要度の認識と実践のずれがあることがわかり、学習指導と評価の改善のポイントを明らかにすることができた。

項 目	実践している	重要と考える
1 さまざまな学習支援の手だて (補習、単元のまとめプリント、週末課題)	53.2	21.3
2 教科書の重要語句の理解・定着	44.7	34.0
3 わかりやすい授業	59.6	63.8
4 学年ごとの目指す資質・能力 (1:基礎基本の徹底 2:発展 3:総合力)	36.2	48.9
5 放課後などの個別指導	44.7	36.2
6 予習・復習のチェック	27.7	46.8
7 日常的な事象を題材とした活動をとおして発見する学習	29.8	40.4
8 授業技術・学力の水準維持 (声の大きさ、板書の工夫、宿題の与え方)	68.1	53.2
9 意欲を持たせるための目標の設定	27.7	53.2
10 生徒をほめる	46.8	57.4
11 基礎を繰り返し学習させることによる定着・応用力の育成	21.3	53.2
12 問題集や学習プリントの利用	57.4	31.9
13 問題演習	57.4	36.2

(考察・改善の方向性)

- ・ **斜体** の数値の項目は、指導のねらいや効果を明確にする必要がある。
- ・ **太字** の数値の項目は、指導方法や評価方法を工夫する必要がある。

表2 指導内容や指導方法について（A～Dの4段階評価）

数値は%

生徒が確かな学力を身に付けるために熱心に指導しているか。				
A	30.4	B	54.3	C 15.2 D 0
生徒の理解度に合わせて、教科指導の工夫を行っているか。				
A	17.8	B	66.7	C 15.6 D 0
適切な授業の進捗をとっているか。				
A	13.0	B	71.7	C 15.2 D 0

（考察・改善の方向性）

- ・シラバスなどを用いて単元の指導の到達目標を明示する。
- ・全員に同じ課題を与え提出を求めることが公平かつ効果的な指導とはいえない。
- ・ある程度継続して指導を行い、提出させた課題を利用することで、各生徒の学習の達成状況を把握する必要がある。

〔事例(3) - 2〕改善につながるような具体的な記述を求める評価項目を設定している。

今後、「開かれた学校づくり」と教職員の資質向上による「よりよい教育の実践」のために行うこととして、次のようなことが考えられます。これらを実施するにはどうしたらよいか、意見を記入してください。

(1) シラバスの研究と作成を行う。

（具体的な意見）

- ・推進のプロジェクトをつくる。
- ・各教科の年間指導計画を見直す必要がある。
- ・現在より詳細なものが必要である。
- ・生徒の成績や授業の記録をもとに、生徒に合ったシラバスを検討する。
- ・夏季休業中に年間指導計画の見直しを行う。

(2) 授業の公開を行い、授業の研究に努める。

（具体的な意見）

- ・常に授業をオープンにする。
- ・学習部が中心で、「授業公開週間」などを設定して計画的に行う。
- ・よい取組を紹介する。
- ・同一学年、同一教科内でまず実践する。
- ・他教科の実践を参考にする機会として有意義である。
- ・出張や教科外の活動をスリム化しないといけない。
- ・誰を対象に行うか検討は必要である。

(3) 学校課題解決のための校内研究を積極的に行う。

（具体的な意見）

- ・小さな単位でミーティングを工夫する。
- ・少人数で自主的に研究する。
- ・学校外の人材を講師に招いて実施する。

〔事例(3) - 3〕本年度の重点目標をもとに、教師が取り組む方策や評価方法、評価の判断基準などを明確にしている。

1 本年度の重点目標

学力の伸長

(1)学習習慣の確立 (2)わかる授業の展開 (3)学習意欲の高揚

生徒指導の充実

(1)基本的生活習慣の確立 (2)交通安全意識の高揚

(3)明るくいいきとした学校づくり

2 本年度の重点目標に対する自己評価

具体策・方策：欠席・遅刻をなくす

具体的な評価方法：出席率・遅刻率に評価の判断基準を設定し、到達度を評価する。

3 生徒指導部の本年度の努力点

規律ある日常生活習慣の養成

(1) 規則の遵守、適正な服装、礼儀作法、あいさつ、ことばづかい等の常時指導

欠席、遅刻をなくす。

学習環境を整える。

あいさつの励行。

服装指導の徹底。

4 出席率・遅刻率の評価の判断基準

出席率

A 十分に達成	(99.0%以上)
B 達成できた	(99.0%未満 - 98.5%以上)
C もう少しで達成	(98.5%未満 - 98.0%以上)
D 達成できなかった	(98.0%未満)

遅刻率

A 十分に達成	(2.0%未満)
B 達成できた	(2.0%以上 - 3.0%未満)
C もう少しで達成	(3.0%以上 - 4.0%未満)
D 達成できなかった	(4.0%以上)

指導上の留意点

朝の遅刻指導、生徒への声かけをすることにより、基本的生活習慣の確立をめざす。